

永澤美保（同調的共生）、中野和彦（環境分析学）、久世明香（動物臨床行動学）
今野晃嗣（動物社会認知科学）、菊水健史（集団内分泌）

研究の背景

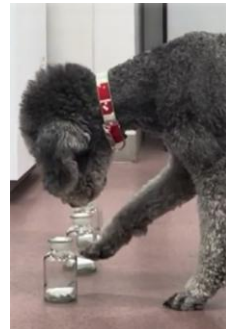
- イヌは「におい嗅ぎ」が大好きです。イヌにとって、他個体の「におい」は社会関係構築の重要な手掛かりになります。
- しかし、イヌほど嗅覚が優れていない私たちヒトは、イヌにとっての「におい」の重要性を軽視しがちです。
- 2023年度以降のジェネプロ研究はイヌの嗅覚をテーマにしています。

2023年度：イヌがヒトのストレス臭を弁別し、般化できるか…①

2024年度：におい嗅ぎを通して、イヌにとって好ましい散歩道を考える…②

2025年度：「わからないことがわかってる？」メタ認知解明に挑戦…③

- 今年度は、今までのジェネプロテーマから引き続き、イヌにとっての嗅覚への理解を深めることを目的とします。

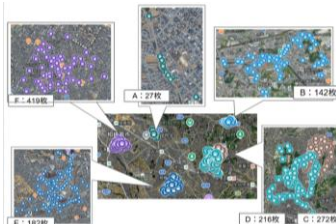


① ストレスのかかったヒトのにおいを嗅ぎ分けることができました。さらに、訓練なしでも嗅ぎ分けることができました。

アプローチ

お散歩くんくんマップをつくろう！

イヌの飼い主から、普段のお散歩でのにおい嗅ぎスポット情報を送ってもらい、地図をつくります②。

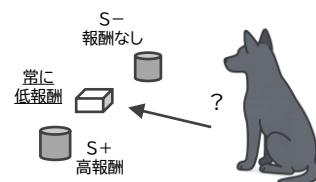


② お散歩くんくんマップをつくろう！イヌがにおい嗅ぎをする場所を地図上に記録して、その特徴を調べています。



わからないことがわかってる？

イヌの嗅覚を解明するための研究の準備として、イヌが自身の持つ知識状態が不確実な場合に、不確実性を表現できるかを調べます③。



③ わからないことがわかってる？ 選択課題でどちらに美味しい餌が入っているかわからない場合に、どのような行動をするのかを調べます。

期待される結果

- ② イヌがどのような場所でおいを嗅ぐのかを明らかにすることで、イヌにとって魅力的な散歩環境や、ストレス軽減につながる環境づくりへのヒントが得られることが期待されます。
- ③ イヌが「自分はわかっていない」という状態を行動として示せるかを調べることで、イヌの認知能力や意思決定の仕組みの理解につながることを期待されます。

募集方法

- 募集人数：若干名（説明会に参加してください。希望者が多い場合は面接で選抜。）
- 下記の条件にあてはまる方：
 - ★ イヌを飼っている方が望ましい（飼っていない方は必ず事前にご相談ください）。
 - ・ 介在動物学研究室のゼミに参加し、積極的に学ぶ意欲のある方。ゼミで研究の進捗報告などを定期的に行ってもらいます。ゼミは週3回、朝8時からです。
 - ・ オープンキャンパスなどでの広報活動に積極的に協力できる方。
 - ・ 忍耐強く誠実な方。
 - ・ 土日でも実験をすることがあります。時間と心にゆとりのある方。
- 連絡先：お問い合わせはメールをお願いします。 nagasawa@azabu-u.ac.jp